

一般  
住宅

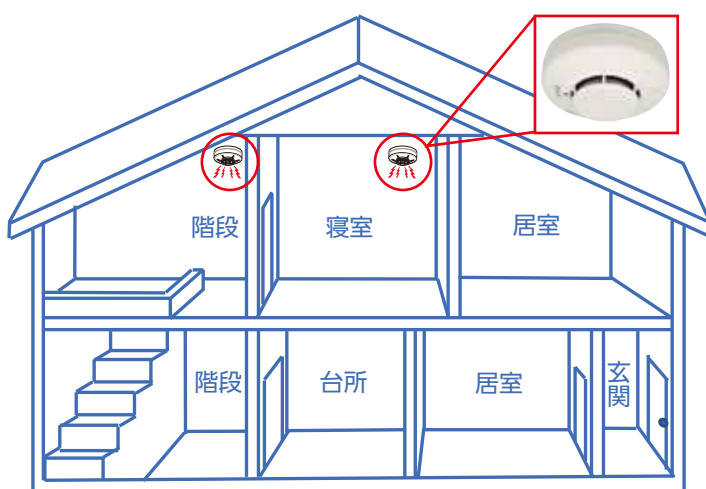
# 一戸建て住宅で 民泊を行う場合



## 住宅用火災警報器(住警器)の設置

- 基本的に寝室に設置することが必要です。  
また、2階建てや3階建ての場合には、寝室の位置によって、  
階段部分にも設置が必要になる場合があります。

### 設置例



### 概要・特徴

- 1 感知部と警報部が一つの機器の内部に含まれています。
- 2 工事等が不要で機器本体を天井や壁に設置するだけで、機能を発揮します。

★自動火災報知設備とは異なります。

### 自動火災報知設備について(p.33確認)

- 1 基本的に感知器のほか受信機、発信機、音響装置などで構成され、これらが配線により接続されます。
  - 2 有線での設置が原則であるため、壁や床の内部における配線工事が必要となります。
- 

★住宅用火災警報器はお近くのホームセンターや電気店などで購入できます。

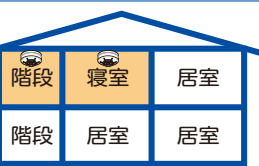
★その他住宅用火災警報器についての詳しい説明を記載したHPはこちら



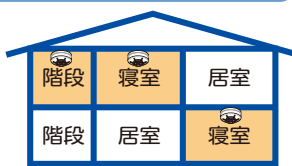
### 平家建ての場合



寝室が1階のみ  
寝室(1階)に必要



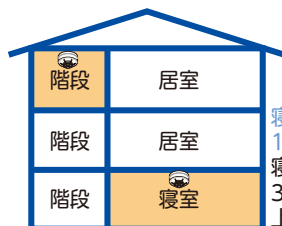
寝室が2階のみ  
寝室(2階)と寝室がある階  
(2階)の階段上部に必要



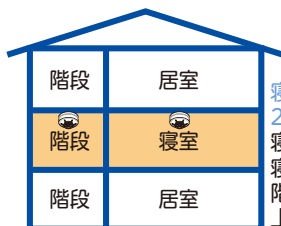
寝室が1階、2階  
寝室(1階及び2階)と  
寝室がある階(2階)の  
階段上部に必要

### 2階建ての場合

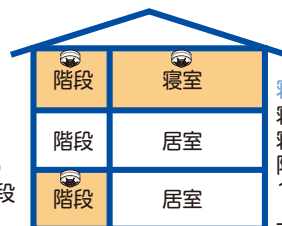
### 3階建ての場合



寝室が  
1階のみ  
寝室(1階)と  
3階の階段  
上部に必要



寝室が  
2階のみ  
寝室(2階)と  
寝室のある階の  
階段(2階)の階段  
上部に必要



寝室が3階のみ  
寝室(3階)と  
寝室のある階の  
階段(3階)及び  
1階の階段  
上部に必要

★上記のほか、市町村等の火災予防条例により、台所やその他の居室にも設置が必要な地域があります。詳しくはお近くの消防署へお尋ねください。